

平成28年度 幼稚園自己評価

重点目標	具体的な取り組み	評価と達成状況	来年度に向けて
	<p style="text-align: center;">園内研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携, 接続に向けて幼児期の学びを促す環境の構成, 教師の援助を考える ・研究の成果を外部に発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第62回幼児教育研究会・平成28年度石川県幼稚園教育理解推進事業公開保育研究協議会(6月10日,参加者約160名)を開催し, 研究の成果及び課題の報告を発表, 及び研究紀要で公表した。 ・附属学校園GP「育ちをつなぐ幼小接続プログラムの開発」では年度当初か附属小学校1年生と本園年長児が計画的に交流活動をすすめてきた。 ・学校教育学類・附属学校園研究推進委員会の全体会(8月)で園の研究を他校種や大学の教員に発信した。 ・第16回保育を語る会(11月19日参加者約70名)を開催した。午前の部で本園の保育を公開し, 午後の部は「3歳児分科会」「4歳児分科会」「5歳児分科会」「幼小連携分科会」の四つの分科会に分かれ, 参加者と共に討論を行った。参加者へのアンケートでは「①保育は参考になったか」「②分科会での話は参考になったか」の2項目ともすべての回答者から「とても参考になった」あるいは「参考になった」との回答を得た。参加者は石川県の公立幼稚園・認定こども園・保育所関係者が大半であり, 地域における幼児教育の普及推進に貢献したと考えられる。 ・昨年度の研究を一步進め, 小学校への学びにもつながる, 幼児がアクティブ・ラーニングを行っている場面の事例を収集し, その時の環境構成・教師の援助を考察している。 ・園内研究会には大学教員にも参加してもらい, 専門的な観点から指導助言をもらい進めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の成果をまとめ, 来年度6月の幼児教育研究会で報告する。 ・平成30年度に改訂される幼稚園教育要領を十分に理解し, それに沿った研究を進めていく。 ・引き続き, 大学教員にも参加してもらい, 専門的な観点から指導助言をもらい進めていく。 ・外部に発信する際の発信の仕方を検討し, 特色あるものにしていく。
<p style="text-align: center;">幼小連携の充実</p>	<p style="text-align: center;">連携・交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と交流活動を行う ・幼小連携, 交流活動を行うための具体的な組織づくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年2組と年長児ほし組が交流・連携を行った。5/18, 6/15, 7/12, 14, 9/2, 5, 7, 8, 9, 12, 13, 14, 15, 27, 11/2, 6, 7, 9, 15, 16, 17, 22, 2/23の計23回。内3回は年長児つき組も一緒に活動する。 ・小学校1年1組, 3組と年長児つき組が交流を行った。(12/12) ・1年生と年長児がわくわく会(新1年生を迎える会)を行った。 ・小学校2年1組とすみれ組が7/12, 9/13, 小学校2年2組とさくら組が7/13, 9/6の各2回交流を行った。 ・学校教育学類・附属学校園研究推進委員会幼小連携部会のメンバーで, 交流活動の打ち合わせ, 指導案検討を行った。(4/21, 7/28, 8/1, 8/22, 8/25) ・今年度は重点的に研究を進めてきたクラスの幼児と交流が少なかったクラスの幼児とでは, 小学校入学に対する期待の差があることが分かった。その結果をもとに, 幼小連携部会で話し合いを行い, 来年度は1年生と年長児が学年として交流することを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動記録(活動案・活動の様子・反省)をもとに, 来年度は1年生3クラスと年長組2クラスが全て交流を行う。 ・まずは幼稚園と小学校の教員同士の交流を進めて行き, 互いの立場で互いの校種の教育等を理解していき, それぞれの教育の質の向上につなげる。

	外部研修会へ参加	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市小教研(生活科)へ参加する ・保幼小連携に関する講演、セミナーなどに参加する ・園での取り組みを外部に発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市小教研(生活科)に参加し、泉小学校1年生、安原小2年生の授業研に参加した。 ・石川県教育センター研修会に参加した。(無藤隆氏の講演) ・金沢市研修会に参加した。(鈴木正敏氏の講演) ・石川県幼稚園教育研究協議会に参加した。(滝口圭子氏の講演) ・全附連(千葉大会)、全幼研(奈良大会)の幼小連携分科会に参加した。 ・広島大学三原学園の第19回幼小中一貫教育研究会に参加した。 ・羽咋市生活科総合部会において副園長が講師として、幼小連携についての講話を行った。 ・保幼小連携・接続先進研究校園である、品川区立第一日野小学校・品川区立第一日野すこやか園に視察・資料収集に行き、幼小連携を進めるための方策のヒントを得ることができた。 ・公益社団法人全国幼児教育研究協会主催の第65回全国幼児教育研究大会奈良大会において、本園が幼小接続について研究してきたことを発表した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、研修会に積極的に参加していく。 ・研修会等で学んだことや収集した情報を園内研究に活かしていく。
自然体験の充実	金沢大学角間の里山での自然体験	<ul style="list-style-type: none"> ・角間の里山での活動案、記録をまとめる ・カリキュラムに位置づける ・活動支援者とのネットワークづくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・附属学校園G「幼児の自然体験プログラムの開発～金沢大学角間の里山ゾーンを利用して～」では、年度当初に米作りを中心に据えた年間活動予定を作成し、取り組みを進めた。 ・石川自然学校インストラクター、里山メイト、大学教員らとメール等で連絡調整を行い、活動案を立て活動を積み重ねてきた。活動後もメール等でそれぞれの立場で活動を振り返り反省したものを共有し記録に残してきた。また、活動案・活動記録・反省等をまとめるフォーマットを作成した。 ・石川自然学校インストラクター、里山メイトとのネットワークづくりを進め、謝金や活動等の支払い方法を整備した。 ・職員が里山メイトの活動に積極的に参加することで、里山メイトと協働的に活動することができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児の指導計画に里山活動を加えたが、幼児にとって、里山における自然体験の意味が明確になっていないので、今後も活動を行い、更に研究を進めていく。 ・職員、インストラクター、里山メイトの役割を明確にしていく。
	園庭などの身近な自然物とのかかわりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の自然物を活用する(畑、プランターの活用) ・カリキュラムに位置づける 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の畑やプランター等を利用して、季節に応じた野菜を育ててきた。その中で、思うように育たなかったものもあった。このように思い通りにならないことがあることを体験を通して学ぶことができた。 ・保護者の力を借りて花壇から移植したいろいろな植物を幼児が遊びに活用していた。また、食べることができる野菜を幼児と共に収穫し、保育活動(特に食育活動)に利用した。 ・教師が、園庭にある自然物に興味をもち、かかわり、幼児に提示したり、遊びに取り入れられたりしてきた。 ・3歳児が、春に咲く花の球根を思い思いに園庭の様々な場に植えるという活動を行った。自分の球根という意識をもち、球根の生長を楽しみにできるように工夫した。 ・その季節ならではの自然物(草花、雨、雪、太陽など)を保育活動に取り入れてきた。 ・おたより等で保護者に幼児の自然物に触れる様子等を伝えてきた。そのことが保護者の方からその季節ならではの花や実を園に持ってきてくれることにつながり、さらに幼児の自然体験が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が園内の自然環境について興味関心を深め、保育に活用していく。 ・保育活動の中で、自然物が身近になるように、日々、丁寧にとりあげたり、環境を計画的に構成したりする。 ・引き続き、おたより等を活用して、保護者にも幼児の自然物とのかかわりを伝えていく。